

途上国の教育環境について③

日本の子どもたちにも知ってもらおう・理解してもらおう

青年海外協力隊の**帰国後の活動**として、「出前講座」というものがあります。開発途上国の実情や日本との関係、国際協力について、JICA ボランティア経験者を講師として派遣するものです。

学校を中心に、毎年**全国で 2,200 件以上、約 20 万人が受講**しています。総合的な学習の時間・各教科や特別活動での国際理解教育、教員や PTA、自治体などの研修で活用されています。

開発途上国の現場での実体験に基づいた話を聞くことができます。国際協力や途上国の文化や暮らしはもちろんのこと、環境、道德、スポーツ、キャリア・進路など、ご希望のテーマや内容、時間に応じて講座を組み立てることができます。

〔講演内容の一例〕

- 開発途上国の文化や生活を知る
- 開発途上国の暮らしから自分たちの生活を見つめなおす
- 国際協力の仕事について知る

今年の 8 月、出前講座に呼んでいただく機会がありました。北九州地区の 3 ヶ所の小学校や児童館で協力隊の経験や現地の様子、同じ年代の子どもたちの教育についてお話させていただきました。

まずは地球儀を使って、「日本ってどこだろう？マダガスカルってどのくらい遠いのだろう？」から始まります。小学生は元気いっぱい。たくさんの「はい！」に圧倒されました。

マダガスカルと聞くと、アニメ映画のマダガスカル（1～3）をイメージするようで、「ライオンやシマウマはいませんよ」というと、「え～?!」と驚かれます。サルを中心とした現地独自の動物や、ピンポン玉くらいのダンゴムシ、巨大ゴキブリや巨大かたつむり・・・動植物全般に興味津々でした。農村地方の生活の様子（電気・水道・ガスが無い）についてはピンとこなかったようですが、同じ年くらいの子どもの様子や学校の様子には興味を抱いていた様子でした。

講座が終わった後は、マダガスカル独自の遊び「**クバーラ**」をみんなで楽しみます。現地では「ピッチリー」という伝統的な鬼ごっこを、協力隊隊員がルールを考案・整備し、正式なスポーツとして普及したものです。コートを使った鬼ごっこのようなものですが、子どもたちはルールの理解も早く、とても一生懸命に楽しんでいました。チーム戦なので、チームワークが求められるスポーツ。作戦を練ったり、プレー中に声をかけたりと、コミュニケーション力が自然と高まります。

将来的に日本全国に普及し、マダガスカルの子どもたちと国際試合ができるようになればな、と思っています。

同じ地球上に住む私たちですが、言葉や文化・肌の色が異なるお友達がいるということを知るだけでも、子どもたちにとっては国際協力につながる**第一歩**なのかもしれません。将来を担う子どもたちに何か1つでも気付いてもらえるよう、今後も活動を続けていきたいと思ひます。

KOBARA(クバーラ)

KOBARA (クバーラ) とは？

マダガスカル全土で広がる遊びです。日本という陣取りや鬼ごっこのようなもの。昔からあった遊びですが、青年海外協力隊がルールを考案・整備し、普及しました。現地では全国大会が開催されるほど広まっています。



KOBARA の特徴

- ・ 敏捷性
- ・ 協調性
- ・ どこでも、いつでもできる
- ・ 道具いらない
- ・ 頭、体、口、耳、全身を使う
- ・ 判断力、集中力



出前講座の様子

ルールの理解が早く、しっかりと作戦を練る姿も見られます。チームワークが求められる遊び。コミュニケーション力も自然と高まります。

番外編
～不便だけど不幸じゃない☆～

